



白子川とカワセミ散歩 (上)

新居和夫



私は、白子川近辺に移り住んで20年になります。これまで仕事に追われ、白子川近辺を散策することはそうそう多くはありませんでした。4年ほど前、火の橋付近で、望遠レンズを構えた「お兄さん」を通勤時に見かけ、声をかけたところカワセミを撮っているとのことでした。それから3年ほど特に関心を持つこともないまま、日常の忙しさに流されたまま過ぎゆきました。昨年11月、お隣さんにカワセミを見たことあるか聞いたところ、「毎朝行くたびに見てるよ」「今朝も2羽がおいかけてっしてたよ」とのことでした。そんなことから今年の2月、この目で初めてカワセミを「発見」し、デジカメで撮影するようになりました。その後、ほとんど毎朝のように白子川の井頭公園から緑橋付近まで重いカメラを背負って散歩することが日課となった次第です。行動範囲は少々拡大し、白子川下流（といっても東映橋の先あたり）までとなりました。

毎日のように白子川近辺を散策していると、これまで気にも留めなかった、小さな、しかし、かなりドラマチックで美しい鳥類（勿論、鳥類ばかりでなくその他の生き物、植物、周辺の自然全体）の世界が広がって

ることに気が付きました。カワセミのほかにコサギ、チュウサギ、アオサギ等のシラサギ類、コゲラ、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ…桜とヒヨドリも結構絵になりますね。ムクドリの大集団も10月ころまで騒がしかったのに、今はすっかり静かになりました。今の時期、ハクセキレイとキセキレイは終始目にします。カラスは勿論、ツミ、トンビなどの猛禽類も居り、青大将とともにカワセミの天敵です。時々の洪水もカワセミにとって大災難です。今年も白子川中流域の水抜き穴に巣作りしたカワセミの3番子（3回目の抱卵でかえったヒナ）は全滅したとの話でした。

カワセミは「翡翠（ひすい）」とも表すように「川辺の青い宝石」と言われるほど美しく、その瑠璃色・コバルトブルーの背中、草木に止まっている姿かたち、飛翔しているすがた形、餌を取り水がらみで飛び出す瞬間等は、何度見て何回撮影してもまったく飽きません。給餌求愛行動、ひなへの給餌、縄張り争いでの独特の戦い方など興味が尽きません。もっとも私のカワセミ歴は、お話にならないくらい短く、経験も浅く、また語るべき知識もほとんどないところです。

(次号につづく)